

アジア経済トレンド

2012年5月

目次

韓国	1
台湾	2
ASEAN・インド	3
中国	4



株式
会社

日本総合研究所

調査部 環太平洋戦略研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/asiatrend>

本資料は2012年5月25日時点で利用可能な政府統計等をもとに作成

本資料に関するご照会先

環太平洋戦略研究センター

向山 英彦 (mukoyama.hidehiko@jri.co.jp)

佐野 淳也 (sano.junya@jri.co.jp)

1. 韓国経済

< 内外需の低迷が続く、欧州債務危機再燃を背景にしたウォン安にも注意 >

2012年1～3月期(速報値)は前期を上回る0.9%成長
 ・1～3月期の実質GDP成長率は設備投資が著しく持ち直したことにより、前期比(以下同じ)0.9%と、10～12月期の0.3%を上回った。需要項目では民間消費1.0%増、総固定資本形成3.7%増(設備投資10.8%増、建設投資▲0.7%)、輸出3.4%増。
 前期比で加速したのは、ほとんどの需要項目が10～12月期にマイナスに陥った(設備投資は7～9月期も)反動によるところが大きく、前年同期比成長率が2.8%(10～12月期は3.3%)にとどまった点を合わせて考えると、内外需の勢いは弱いといえる。

内外需の低迷が続く

・輸出(通関ベース)は3月の前年同月比(以下同じ)▲1.4%に続き、4月も▲4.8%と前年割れ。国・地域別では、米国向け4.3%増、中国向け▲2.9%、EU向け▲16.7%。
 ・消費に関しては、自動車販売台数の前年割れが続いており、4月は前年同月比▲4.5%。デパートの売上も低迷が続く。消費の減速要因には、実質国内総所得(GDI)の伸び悩み、社会保険負担や利払いなどの「非消費支出」の増加、家計債務の増加を背景にした銀行の融資姿勢厳格化。
 ・2011年半ばより「家計債務総合対策」が実施されているが、ノンバンクの融資が伸びたため、家計債務の増加が続く。2月末、ノンバンクに対する融資抑制策を発表。

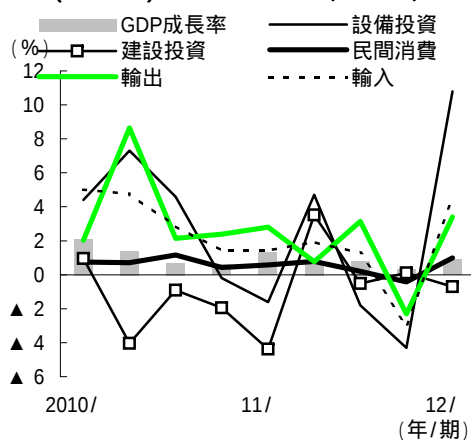
高止まりする期待インフレ率

・4月の消費者物価上昇率(前年同月比)は3月の2.6%を下回る2.5%に。ただし、食料・飲料価格の上昇幅が再び拡大したほか、住宅・光熱費と交通費の上昇が続く。期待インフレ率は5月現在3.7%と高止まりしており、政策金利の据え置きが続く。
 ・欧州債務危機の再燃を背景にウォン安が進む。ウォン安が進めば、輸入物価の上昇を通じてインフレ再加速のリスクも。

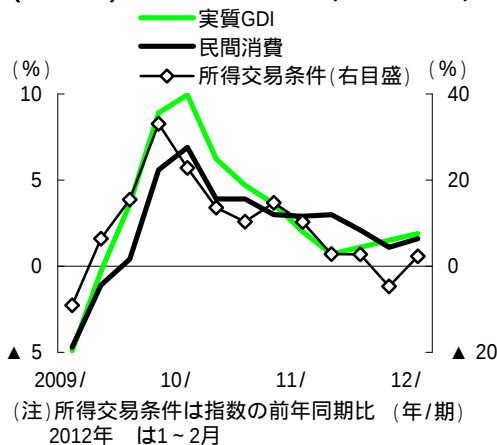
2012年は3.2%成長に

・韓国銀行は4月、今年の実質GDP成長率を3.5%へ下方修正(昨年末時点は3.7%)
 内外需の減速により、2012年の実質GDP成長率は11年の3.6%を下回る3.2%になるものと予想。消費が冷え込めば、2%台となる可能性も。

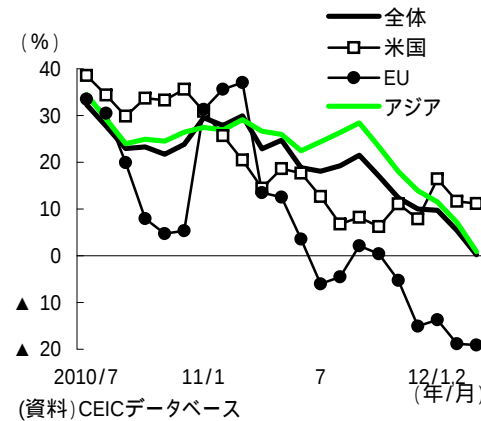
(図表1-1)実質GDP成長率(前期比)



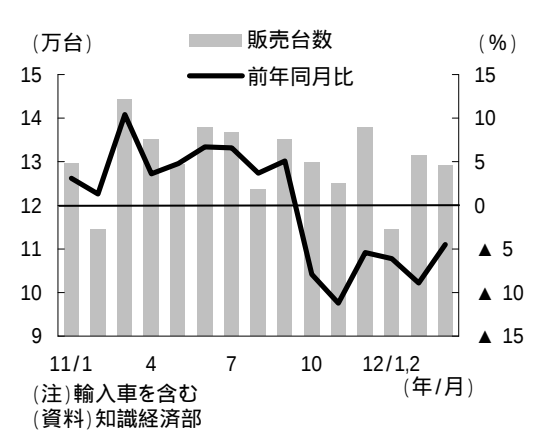
(図表1-2)実質GDIと民間消費(前年同期比)



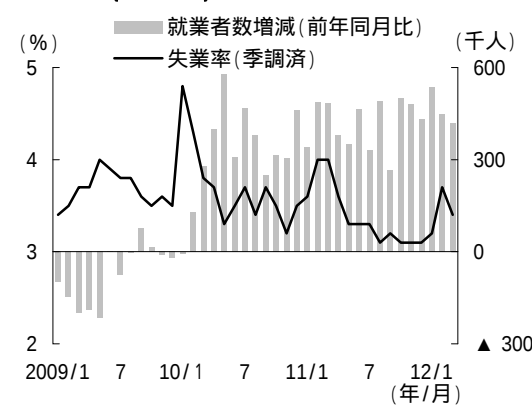
(図表1-3)輸出(後方3カ月移動平均)



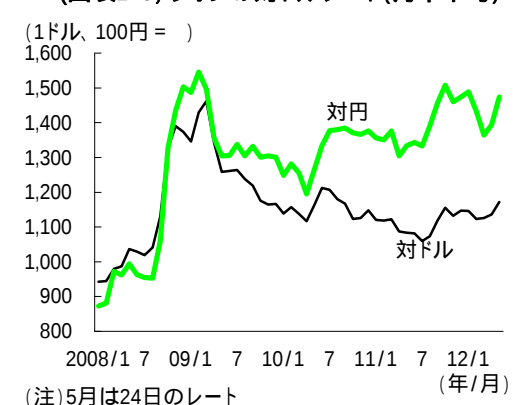
(図表1-4)自動車販売台数



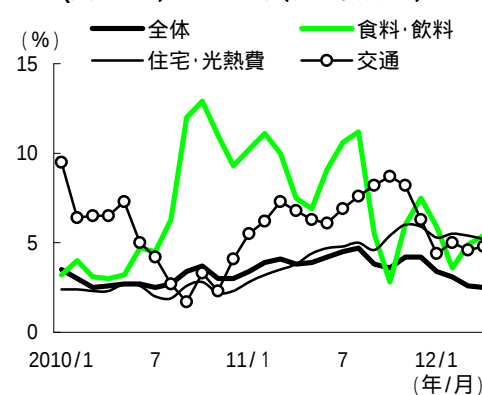
(図表1-5)雇用関連指標



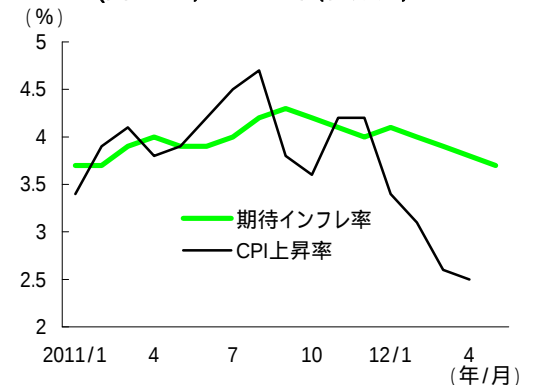
(図表1-6)ウォンの対ドルレート(月中平均)



(図表1-7)CPI上昇率(前年同月比)



(図表1-8)CPI上昇率(前期比)



2. 台湾経済

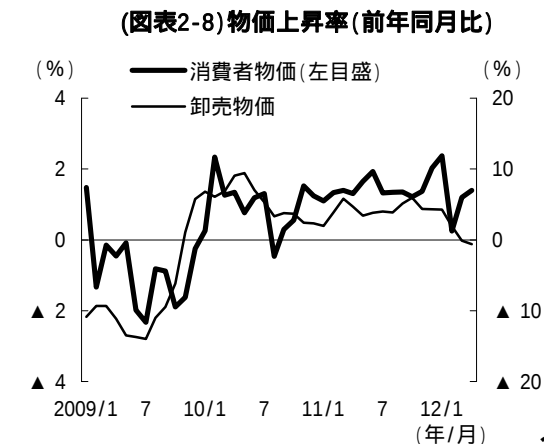
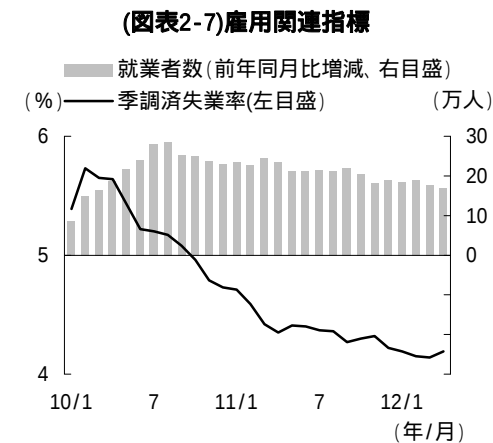
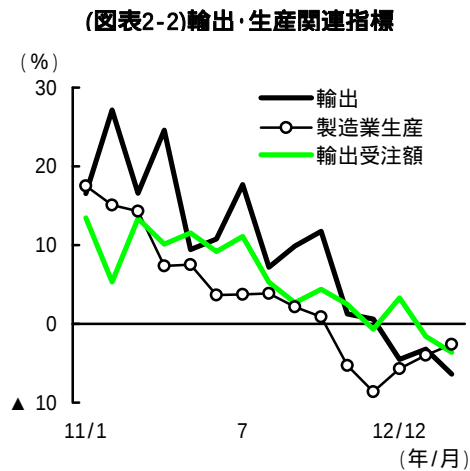
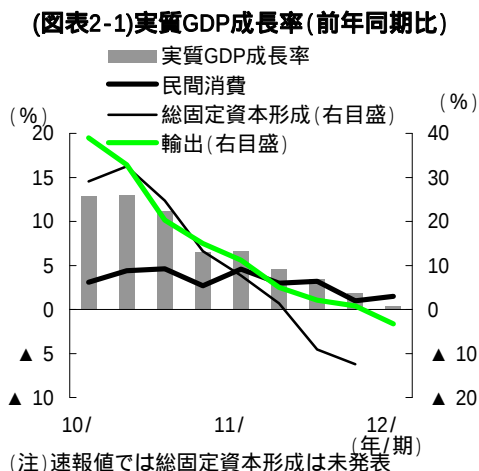
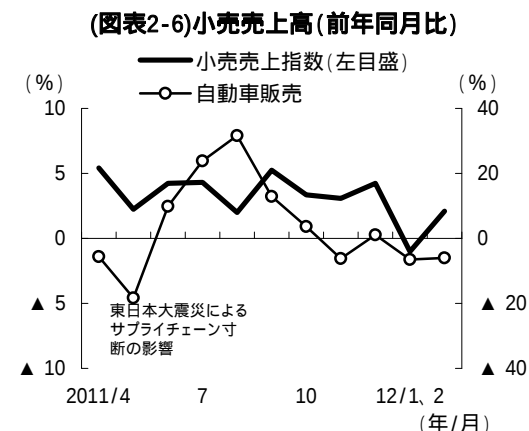
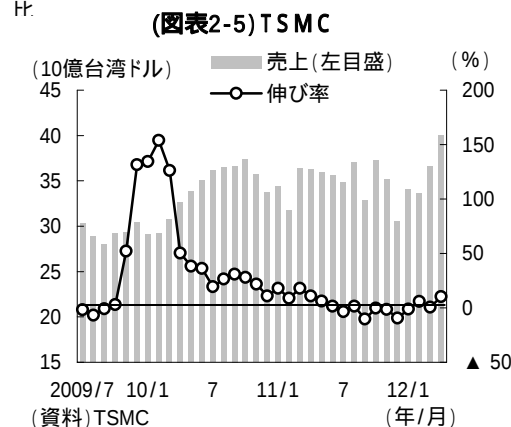
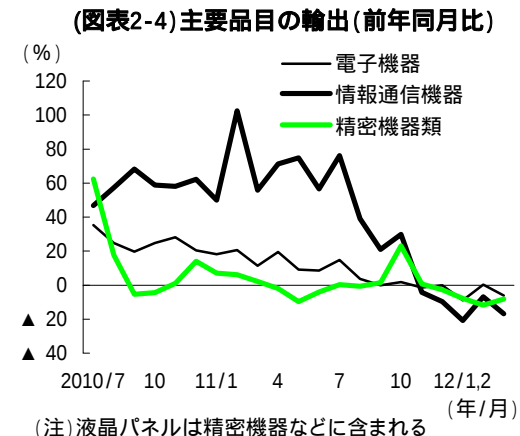
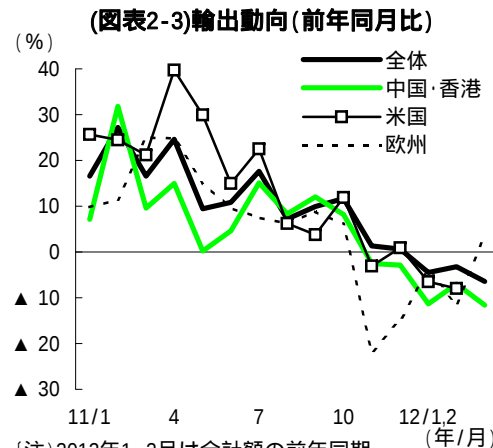
<前期比成長率は3期ぶりのプラスに転じるも、懸念される輸出回復の遅れ>

1～3月期は前年同期比0.4%の成長、前期比は3期ぶりのプラスに
 ・2012年1～3月期(速報値)の実質GDP成長率(前年同期比、以下同じ)は0.4%と、10～12月期の1.9%を下回った。民間消費が1.5%増となったのに対して、輸出が▲3.3%、総資本形成▲14.9%。
 前期比成長率(年率換算)は1.1%と、3期ぶりのプラスに(7～9月期▲0.2%、10～12月期▲0.6%)。

厳しい輸出環境が続く
 ・4月の輸出(通関ベース)は前年同月比(以下同じ)▲6.4%と、3月(▲3.2%)に続き前年割れ。欧州向けがプラスに転じた一方、米国向け▲16.3%、全体の約4割を占める中国・香港向け▲11.6%と、低下幅が拡大。
 ・3月の小売売上指数は前年同月比2.1%増に。自動車販売はガソリン価格上昇の影響もあり、前年割れが続く。
 ・失業率(季調済)は3月4.14%から4月は4.19%へやや上昇。製造業の平均労働時間と賃金(残業代を含む)の伸び率が低下しており、これが消費にマイナスの影響を及ぼしている。
 ・4月の製造業生産指数は前年同月比▲2.6%と、減少幅が縮小。

・年初に回復の兆しがみえた輸出受注額は3月の前年同月比▲1.6%から4月に▲3.6%へ低下幅が拡大。米国向けが0.8%増、中国・香港向けは▲7.8%。品目別では電子機器▲2.9%、情報通信機器▲4.6%、精密機器類▲6.5%に。

今後の経済見通し
 ・台湾政府は2月22日、2012年の実質GDP成長率見通しを1月に発表した3.91%から3.85%へ若干下方修正。
 ・中国の輸出ならびに製造業生産の鈍化の影響を受けて、中国向けの輸出の低迷がしばらく続き、輸出の回復は年後半にずれ込む公算大。2012年の実質GDP成長率は3.5%になるものと予想。



3. ASEAN・インド経済

<インドネシアでは比較的高い成長を維持、タイも1～3月期にプラス成長>

ASEAN諸国

- ・世界経済の減速を受けて、ASEAN諸国の輸出が急減速。
- ・シンガポールでは2012年1～3月期の実質GDP成長率が前期比(年率換算)10.0%に(前年同期比は1.6%)。
- ・インドネシアの1～3月期の実質GDP成長率(前年同期比)は前期をやや下回る6.3%に。世界経済の減速の影響を受けて輸出が7.8%増と鈍化したものの、民間消費4.9%増、総固定資本形成9.9%増と内需が安定的に伸びた。
- ・他方、消費者物価上昇率(前年同月比)は2月の3.6%から3月4.0%、4月4.5%と、インフレ圧力がやや強まる傾向にあり、消費への影響が懸念。
- ・マレーシアでも民間消費と総固定資本形成が高い伸びとなったが、輸出の減速により1～3月期の実質GDP成長率(前年同期比、以下同じ)は前期をやや下回る4.7%に。

・洪水により景気が落ち込んだタイでは、ほぼ順調に回復。実質GDP成長率(前年同期比)は10～12月期の▲8.9%から1～3月期には0.3%へ。民間消費2.7%増、総固定資本形成5.2%増となったのに対して、輸出は▲3.2%。

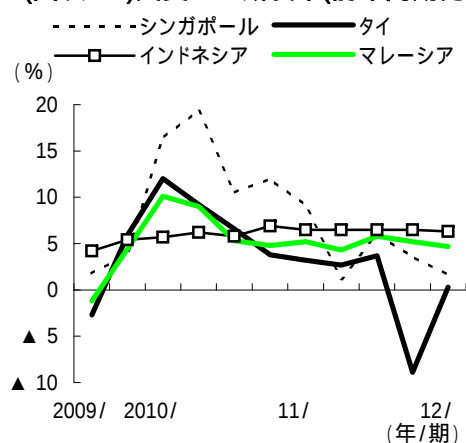
4月より最低賃金40%引き上げ。消費の刺激が期待される一方、企業経営への影響やインフレ助長が懸念。

・ベトナムでは1～3月期の実質GDP成長率が前年同期比4.0%に。他方、CPI上昇率(前年同月比)は8カ月連続で低下し、5月(速報値)は8.3%。景気の減速とインフレ率の低下を受けて、4月11日、追加利下げ実施。

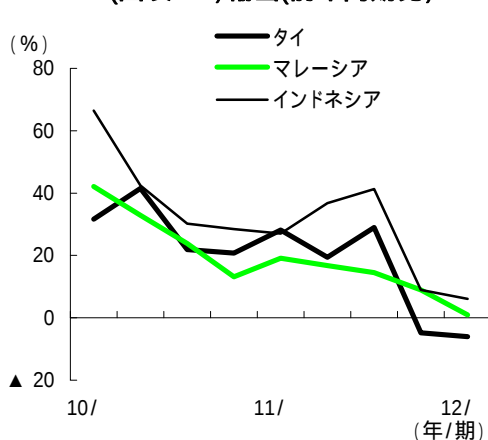
インド

- ・インフレと相次ぐ利上げの影響で製造業が減速し、10～12月期の実質GDP成長率(前年同期比)は前期の6.9%を下回る6.1%に。足元では、輸出と生産が再び減速。景気減速とインフレの抑制を受けて、4月17日政策金利を0.5%引き下げ。
- ・ただし、卸売物価上昇率(前年同月比)は3月の6.9%から4月に7.2%へやや上昇するなど、物価動向は引き続き要注意。
- ・2011年度(11年4月～12年3月)の成長率は6.9%、12年度は7.2%になるものと予想。

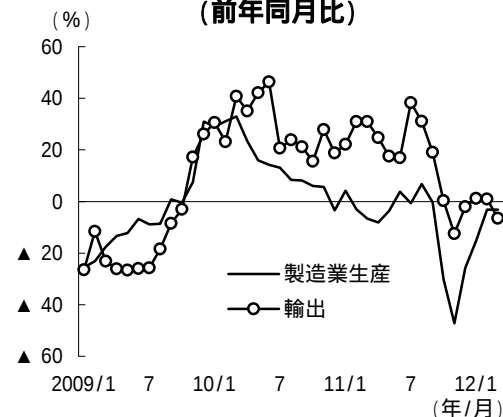
(図表3-1)実質GDP成長率(前年同期比)



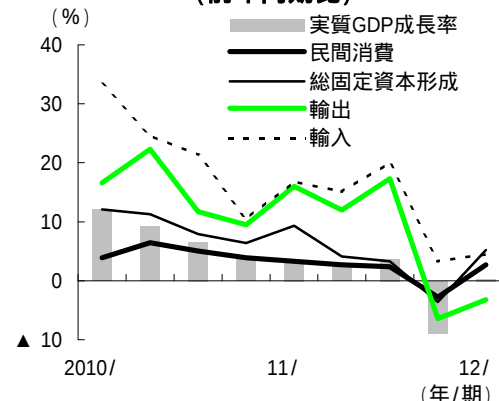
(図表3-2)輸出(前年同期比)



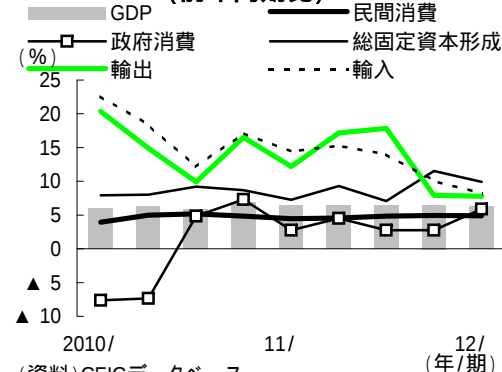
(図表3-3)タイの製造業生産・輸出(前年同月比)



(図表3-4)タイの実質GDP成長率(前年同期比)

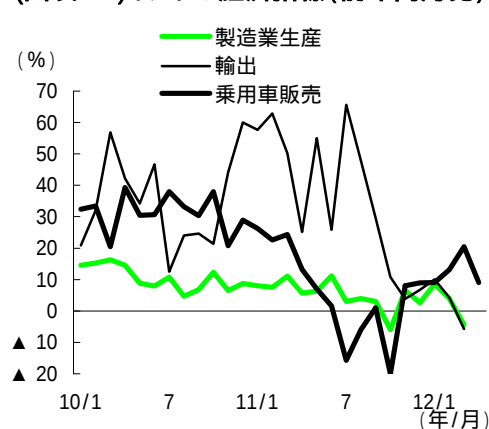


(図表3-5)インドネシアの実質GDP成長率(前年同期比)

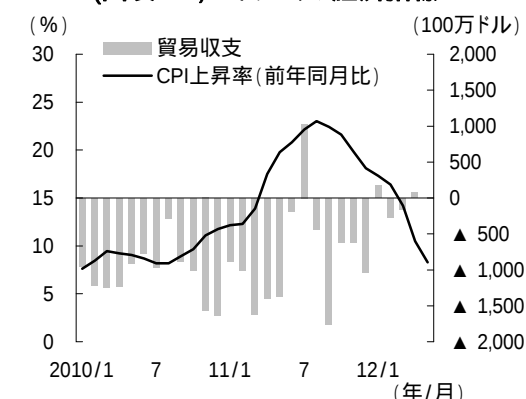


(資料)CEICデータベース

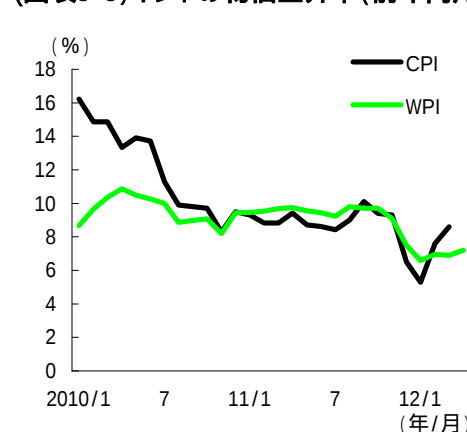
(図表3-7)インドの経済指標(前年同月比)



(図表3-6)ベトナムの経済指標



(図表3-8)インドの物価上昇率(前年同月比)



4. 中国経済

< 預金準備率引き下げ等の景気対策を推進 >

内外需とも伸びが鈍化

- ・1～4月の固定資産投資(除く、農村家計)は、前年同期比20.2%増。不動産開発投資も同18.7%増と、伸び率が大幅に低下。他方、小売売上高は拡大続くも、増勢は鈍化。自動車販売台数は前年比で持ち直しているものの、商用車は大幅な落ち込み。
- ・EU向けの2カ月連続の前年割れなどもあり、4月の輸出は前年同月比4.9%増と伸び悩む。輸出の低迷が工業生産付加価値の伸び率を押し下げの一因に。

物価上昇率は低下傾向、人民元対米ドルレートは緩やかな元安

- ・4月の消費者物価は前年同月比+3.4%と、前月を0.2%ポイント下回る。物価高騰の主因であった食品価格の上昇は沈静化しつつあり、金融緩和の余地拡大。
- ・5月の人民元の対米ドルレートは、4月の変動幅拡大後も、1日の動きは狭い範囲内で推移しつつ、緩やかな元安進む。

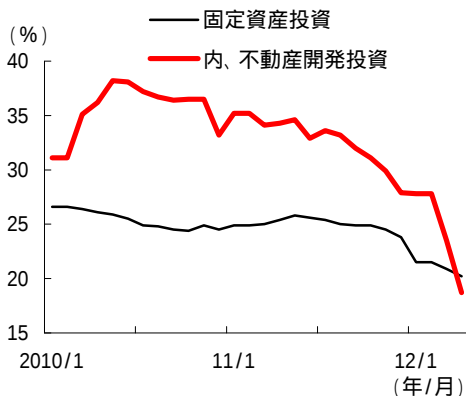
預金準備率の引き下げに加え、消費刺激策を打ち出す

- ・5月12日、中国人民銀行は預金準備率の0.5%ポイント引き下げを発表(実施は18日)。景気の減速を背景に、金融面からの下支え措置を強化。
- ・同月16日の国务院常務会議において、条件を充たしたエアコン等の家電5品目に265億円の財政補助、小型エコカーや省エネモーター、省エネ照明にも別途補助金を投じる方針を打ち出す。

下振れ要因強まるも、内需拡大策を通じて景気は底打ちへ

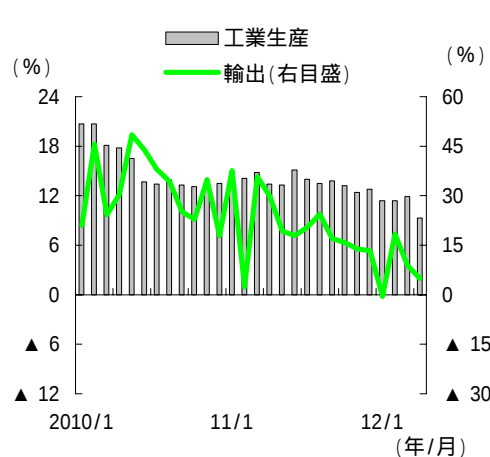
- ・景気減速感は総じて強まっているものの、財政政策の面から、輸出や投資を急回復させようとする姿勢は、現時点では強く看取されず。
- ・消費を中心に、内需拡大策の段階的な推進が見込まれることから、景気は4～6月期を底に、持ち直すと期待。

(図表4-1)固定資産投資(除く、農村家計)



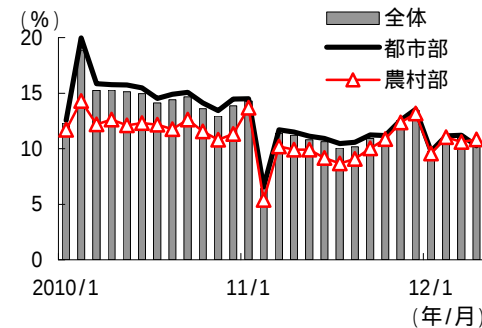
(注) 1. 年初からの累計額で前年同期と比較。1月は発表されないため、1～2月の伸び率を使用
2. 2010年末までは、都市部のみ

(図表4-2)輸出、工業生産



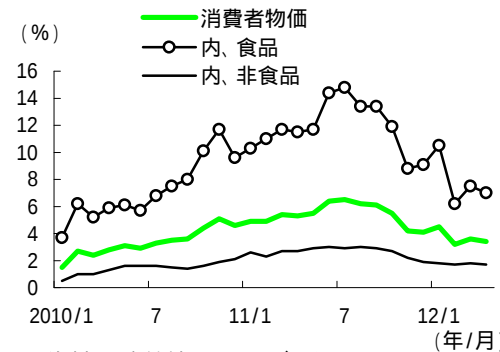
(注) 工業生産は、一定規模以上の企業に限定

(図表4-3)小売売上高(前年同月比)



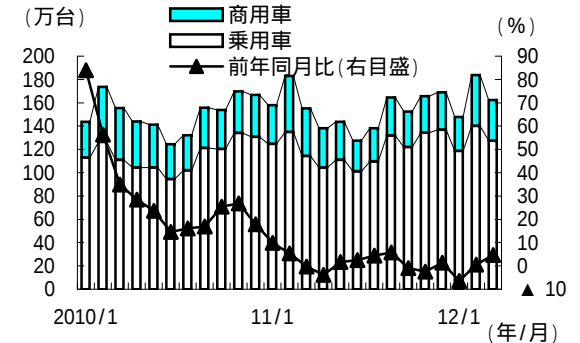
(注) 1. 消費者物価指数で実質化
2. 2012年から1月、2月は、1～2月の伸び率を使用

(図表4-5)物価上昇率(前年同月比)



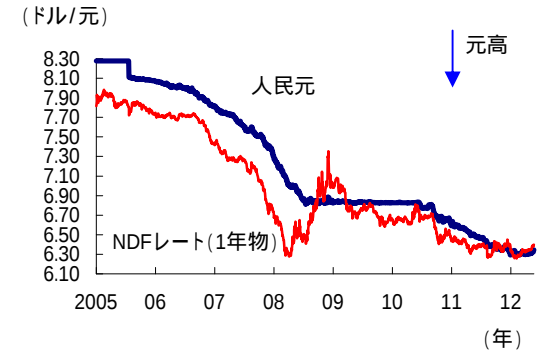
(資料) 国家统计局、CEICデータベース

(図表4-4)自動車販売台数



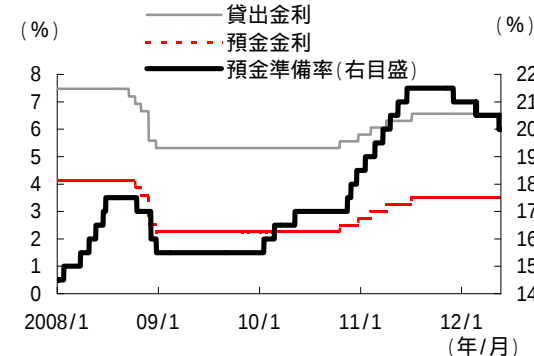
(注) 1月は1～2月の平均販売台数、前年同期比で表示
(資料) 中国汽车工业协会、CEICデータベース

(図表4-6)人民元レート



(注) 最新は、12年5月24日

(図表4-7)基準金利(1年物)、預金準備率



(注) 預金準備率は、大手銀行の数値

(図表4-8)消費刺激策

対象品目	支援規模など
家電	一定基準を充たすエアコン、薄型テレビ、冷蔵庫、洗濯機、湯沸かし器に265億円の財政補助(実施期間は、暫定的に1年間)
自動車	排気量1,600cc以下のエコカーに60億円の財政補助
省エネ照明	LED電灯などに22億円の財政補助

(資料) 中国政府ウェブサイト